

中長期目標 (学校ビジョン)	大胆な挑戦(Dare Greatly) 1 学ぶ意欲を育てる＝「主体性を育てる」「やる気を引き出す」→授業改革 2 成長を支える＝「人と出会い、新たなことへの挑戦を促す」→場の設定・声かけ 3 変化を求める＝「現状に満足しない」「変化を恐れない」→現状を見つめる	今年度の重点 目標	1 基礎学力の向上 2 基本的生活習慣の確立 3 キャリア教育の充実 4 地域社会への貢献 5 的確な情報発信 6 業務改善の取組
-------------------	--	--------------	--

年 度 当 初					最 終 評 価		
評価項目	評価の具体項目	現 状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
【基礎学力の向上】 ○社会人として必要な基礎学力・一般教養の習得 ○「やる気を引き出す」授業の工夫・改善	○家庭学習を充実させ、基礎学力の定着 ○一般教養を習得させ、社会人として必要な力の修得	○家庭学習時間は昨年度より増加したが、まだ充分とはいえない。 ○朝勉強テストの結果は、全校で満点者率が16%、不合格者率18%であった。 ○成績不振者に対して、長期休業中や考査前の放課後に講習を行った。 ○主体的な学びを行わせる授業、ICTを活用した授業の実施率は高く、新しい形の学びは定着してきている。 ○タブレットの活用講習会も実施したので、その利用方法も定着しつつある。	○全生徒の1日の平均家庭学習時間が1時間以上である。 ○ICTやアクティブラーニングの手法を駆使し、生徒の興味・関心を育み、考える力を培う授業ができるようになる。 ○アンケートで生徒の授業理解における肯定的評価が80%以上である。 ○アンケートで朝読書・朝勉強テスト等で知識が身についているとする生徒が80%以上である。	○家庭学習、朝勉強テスト、検定などを通じて、基礎学力の定着を図る。 ○受け身型の授業だけでなく、主体的に考えさせたり、グループ内で対話的に学習したりする授業を積極的に実施する。 ○ICTの活用により、生徒の興味関心を引き出す授業を積極的に実施する。 ○読書活動が円滑に進むように昇降口貸出等の支援を続け、さらに読書の質を高めるため「らいぶらりん」や「図書館通信」で情報提供を続ける。	○家庭学習時間調査（5月、11月）では、1日の平均が1年生40分、2年生22分、3年生25分と少なかった。 ○ICTを活用した授業、主体的な学びを行わせる授業、家庭学習をさせる取組を行っている授業を、年に数回以上実施している科目の割合は、それぞれ69%、90%、62%である。 ○教員向けにG-Suite for Educationsの使い方の研修として、「思考の見える化」、インタラクティブな授業、主体的に活動できる授業の手法提示を行い、スキルアップを図ることができた。 ○アンケートで生徒の授業理解における肯定的評価は79%であった。また、朝読書・朝勉強テスト等で知識が身についているとする生徒は79%であった。	B	○家庭学習の定着を図るため、引き続き朝勉強テストやOne-Weekトライアルの取組を充実させる。 ○朝勉強テストの不合格者（70点未満）には、学年団と連携して補習等を実施し、基礎学力の向上に努める。 ○引き続き授業改善の研修を行い、主体的・対話的かつICTを活用した授業を設計できる教員を増やしていく。 ○生徒自らが適切に情報収集するため、さまざまな場面で図書館が活用できるように、生徒・教員ともに適宜支援をしていく。
【基本的生活習慣の確立】 ○知・徳・体のバランスが取れ、社会人として必要な規範意識を身につけた人物の育成 ○あいさつの励行、ルールとマナーを遵守することの啓発	○知・徳・体のバランスが良い生徒の育成 ○社会生活におけるルール・マナー・モラル等を遵守する習慣や規範意識の修得	○生徒会、部活動、委員会の生徒と挨拶運動をすることにより、進んで挨拶をする生徒が多くなった。 ○多くの生徒が服装頭髪検査で問題ないが、若干名、再検査や再指導の対象になる生徒があった。 ○交通安全教室等を実施した他、交通ルールの啓発指導を毎月実施したが、自転車事故の件数は昨年より増加した。 ○情報モラル講演会、非行防止教室、薬物乱用防止講演会等を実施して生徒の規範意識の醸成を図り、意識が定着してきた。 ○不安を抱えている生徒について迅速に対応し、担任、学年団、SC、SSW及び関係機関と連絡・情報交換を密に行い、支援することができた。	○ルール・マナー・モラル等を遵守する規範意識が高まる。 ○「身近な差別」に気づき、その解消に向けて行動できる。 ○情報モラルの意識が高まり、SNSに関わるトラブルが起きない。 ○アンケートで生徒・保護者の「基本的生活習慣の確立」項目の肯定的評価が90%以上である。	○挨拶を定着させるために、全校であいさつ運動を実施する。 ○規範意識を高めるために、各種講演会を実施する。 ○日常的に、また人権教育LHRを通じて、人権問題について考え、行動できる力を養う。 ○分離礼を徹底し、学校全体の取り組みとして指導し、生徒の意識を高める。	○マナーアップ運動や挨拶運動（駐輪指導時）により、元気に挨拶をする生徒が多くなった。 ○SNSを利用している生徒が多く、トラブルが増加した。 ○人権学習では、生徒全員が発言できた「参加型」LHRを展開することができた。ワールドカフェ形式での話し合い（1年）、テーマ別講演会による分科会形式での学習（2年）を中核とした。3年生に関しては、学年講演会の導入と数種のDVD資料提供により、生徒の討議が円滑に進むよう工夫をした。 ○授業の前後の分離礼の取り組みは、概ね成果をあげ、習慣化しているが、生徒によって取組姿勢にばらつきがある。 ○「基本的生活習慣の確立」項目の肯定的評価の割合は、生徒89%、保護者81%であった。	C	○生徒会執行部とも連携をして生徒主体の挨拶運動に移行する。 ○SNS利用に関する情報提供やトラブル防止の啓発活動の内容を検討する。 ○人権委員に対して年度当初より段階的に指導することによって、学級での役割と人権学習への姿勢を育成する。 ○分離礼を継続して指導・実施する。生徒の意識をさらに高める指導の方法を検討する。 ○服装指導、遅刻指導について、家庭との連絡を密にして取り組む。

【キャリア教育の充実】 ○適切な職業観・勤労観を持ち、意欲的に課題発見・課題解決に取り組む人物の育成 ○インターンシップの早期計画と進路 LHR の活用 ○地元産業との連携を図り、専門性を深化させ、地域から信頼される人物の育成 ○資格取得の合格率向上のための指導法の工夫	○系統立てた指導により、職業観・勤労観の育成を図り、課題研究等を充実させ、主体的積極的な取組の推進 ○インターンシップ等、体験学習の充実 ○進路実現に向け、地元産業・大学等を理解し、進路意識の向上 ○資格取得を推進し、より高度な専門資格の取得	○進路 LHR で職業調べ（１年）、スタディサプリ（２年）等を計画的に実施して、職業研究に取り組む態度が身についてきた。 ○進路希望別に四大・短大希望、専門学校希望、就職希望の３コースに分かれた学校企業見学や進路講演会を実施し、進路意識を高めることができた。 ○インターンシップでは昨年度 6 2 事業所を今年度は 6 7 事業所で実施し、事前指導、事後指導（発表会）を計画通り行い、職業観・勤労観を高めることができた。 ○学校紹介による就職は内定率 1 0 0 % を達成した。 ○基本情報処理技術者試験 1 名、IT パスポート試験 1 名、日商簿記検定 2 級 1 名、販売士検定 3 級 7 名が合格した。 ○検定の多種目合格者は、商業学科 6 種目 1 名、4 種目 1 名、3 種目 7 名、家庭学科 3 冠王 8 名であった。	○調べ学習を通じて、自ら進んで職業研究に取り組む態度が身につく。 ○進路実現に向け、インターンシップを行う意義を理解し、その目標を達成する。 ○就職希望者が全員内定を得ている。 ○各種検定の合格率が目標値に達している。また、進路を意識し積極的に上位級を目指している。	○高校で新たに取り組む専門科目に力を入れ、資格取得の意欲を持つ。 ○インターンシップに主体的・積極的に取り組ませる事により職業観や勤労観を養う。 ○進路を意識した検定の上位級取得と多種目受験を推奨し、目的意識を引き出す。 ○進路指導部と担任団が情報を密にして、生徒の進路希望に沿った指導を行う。 ○教員に必要とされる力量をより高め、高度な職業資格の取得に向けての指導体制を高める。	○計画通りに適性検査、進路講演会、職業理解ガイダンス、進路 LHR を実施し、進路意識を高めることができた。 ○１年生は各種検定取得を目標に、学習する意欲や習慣が身についてきた。 ○２年生インターンシップは、企業から一定の高評価をいただき、生徒にとっても良い経験ができた。 ○３年生の面接指導や小論文指導については学校全体で取り組み、生徒の進路意識と意欲の向上につながった。 ○商業科では、資格取得に積極的に取り組む傾向はあるが、高度な資格取得に挑戦し、目標を達成する生徒の割合は例年と比べて高くはなかった。 ○家庭科では、家庭科技術検定 1 級合格率が 8 2 % となり、目標を達成した。また技術顕彰受賞者も昨年より増加し、意欲的に学習に取り組んだ成果が出た。 ○学校紹介による就職は、1 月末時点で 100 % を達成した。	B ○本校版のキャリアパスポートを作成し、3 年間を見通したキャリア形成の道筋をつける。 ○インターンシップの準備を早めにスタートする。 ○各教科担任を通じて資格取得のモチベーションを高めるよう働きかける。また現在の生徒の実態に合わせ、カリキュラムを見直す必要がある。 ○専門科目の重要性に気づかせつつ、基礎・基本の充実の延長線上に高度資格の取得を位置づけ、活かした学びとして、意識・意欲を高めさせる取組を行う。
【地域社会への貢献・地域のリーダーとなる人財の育成】 ○地域を知り、ふるさとを愛し、広く地域社会の発展に寄与する人物の育成 ○社会貢献の推進、校外の教育力の活用	○地域活力の導入や地域活性化の推進 ○学校や地域で主体的に行動でき、地域社会の発展を進める人財の育成	○課題研究により 7 月の七夕まつり、1 2 月のマチナカクリスタル、地元の事業所のポスター制作等、地域と連携した取組を実施し、本校の魅力を発信できた。 ○地元の特産品の商品化やイベント協力、小学校給食提案、高齢者施設でのボランティア、中海アダプトプログラム等を通じ地域貢献活動を行った。 ○地域の保育園や小学校との交流授業やみつばち学習発表会などの各種発表会に向けた取組により、コミュニケーション力やプレゼンテーション力が伸長した。	○生徒会や各委員会活動、地域への活動等を通じ、責任感や協調性、積極性を育む環境を整える。 ○何事にも主体的に取り組む、リーダーとして集団をまとめられる。 ○この地域の良さを再認識でき将来的に主体的に企画・実行するリーダーを目指す。 ○課題研究や各種活動を通して地域をより深く理解すると同時に、コミュニケーション力・プレゼンテーション力が向上する。	○生徒会や各委員会活動、地域への活動等を通じ、責任感や協調性、積極性を育む環境を整える。 ○日々のクラスの生活や各種行事（学校祭・遠足・球技大会）での活動の中で協調性や社会性を身につける。 ○地域の協力団体、企業などと連携し、活動の拡大を図る。教職員の活動に対する意識を高め、生徒が積極的に取り組む意識も高めさせる。 ○全学年の授業の中で発表の機会を設け、発信力を育成していく。	○商業科課題研究では、米子市公会堂と連携した新イベントを開催した。地域とのつながりを伴う活動を通じて、自らのキャリアデザインを考えるきっかけをつかみ、進路選択の参考にできた生徒が出てきている。 ○家庭科課題研究では、いくつかの生徒企画製品の商品化を果たし、試食会や販売活動等ではマスコミにも大きく取り上げられた。多くの方に支援していただき、地域活性化に貢献できたことは生徒の問題解決力育成と大きな達成感につながった。 ○学校祭をはじめとして、生徒会担当各行事や独自の取組である挨拶運動等の活動は生徒会長が中心となり執行部員をまとめ協力して行うことができた。まだ工夫や改善は必要ではあるが成果のある活動をする事ができた。	A ○活かしたビジネス教育を実現する意味からも、地域と連携した取り組みをさらに拡充させ、その機会を増やし、さらに生徒の意識を高める。 ○来年度も福祉施設からの給食献立作成等すでに依頼のきているものもあるが、地域貢献への高い意識を持ちつつ行事の精選・授業時間数の確保は引き続き実施する。 ○学校祭等の行事では生徒が主体となって企画、運営できる機会が増えるよう内容の見直しを検討する。
【的確な情報発信】 ○学校の様子や教育内容等の伝達の工夫 ○学校に対しての正確な認識の形成	○メディアを利用した教育内容のわかりやすい伝達 ○特色ある専門高校としての人財育成の姿の発信	○ホームページ等を通して学校からの情報発信を行っていたが、中学生やその保護者にその魅力が十分に伝わっていない可能性もある。 ○定員割れしたことを謙虚に受け止め、生徒募集の工夫をするともに生徒の成長した姿を様々な媒体を利用して発信していく必要がある。	○メディアを積極的に活用し、生徒の活動・活躍をアピールする。 ○行事・イベントだけでなく普段の状況もわかりやすく伝え、学校に対して正確な認識が形成されている。	○在校生・保護者・中学生のそれぞれに細やかな情報発信を様々な方法で伝える。 また、体験入学や学校訪問の内容を見直し、中学校への出前授業などの取り組みについても検討する。 ○課題研究発表会など学習成果を発表する機会を設け、メディアや学校 web ページ等を活用し、情報発信を行う。	○ホームページに加えてフェイスブックでもイベントだけでなく、授業内容等も含めた情報発信を頻繁に行った。 ○専門科教員による中学校訪問など、積極的に情報発信する取組を行った。新たに中学校への出前授業の提案を行ったが、中学校からの申し込みはなかった。	B ○生徒が成長していく過程がわかるような情報を発信していく。 ○中学生・保護者のニーズを把握し、必要な情報発信の取組を行う。

【業務改善の取組】 ○働き方改革の推進 ○時間外業務の削減	○ワークライフバランス確立の推進 ○長時間勤務者の解消	○月あたりの時間外業務が平成２９年度比１０％削減は達成できている。 ○「部活動に係る活動方針」を設定した。	○月あたりの時間外業務が平成２９年度比１５％削減を達成している。 ○「部活動に係る活動方針」に沿った部活動が行われている	○早期退勤日を設定し、それを念頭において計画的に業務を行う。 ○月毎の部活動計画をもとに、生徒・教員の休養がとれているか注視する。	○１月末現在、時間外業務の平成２９年度比１５％削減は達成できているが、ガイドラインが定める年間３６０時間以内という基準を多くの職員が超えている実態がある。 ○「部活動に係る活動方針」は浸透してきているが、シーズンオフ期間の活動を意識していく必要がある。	B	○校務分掌を改編して、一人に業務が偏らない分担になるよう工夫する。 ○土日等の部活動は、顧問間で分担して行っていく。
--	--------------------------------	--	---	--	---	----------	---

評価基準（５段階） A：十分に達成 B：概ね達成 C：変化のきざし D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し